

サツマイモでナカジロシタバの発生が多くなっています！ 早めに圃場を観察し、防除適期を逃さないようにしましょう。

[現在の発生状況]

- ① 7月上旬現在、病害虫防除所の調査圃場における被害つる先率は7月下旬の平年値より高く、寄生虫数は7月下旬の平年値より多い（図1、2）。
- ② 例年8月から9月にかけて被害つる先率および寄生虫数が増加するが（図1、2）、本年は7月上旬時点で既に7月下旬の平年値を上回っており、今後も高く推移すると予想される。

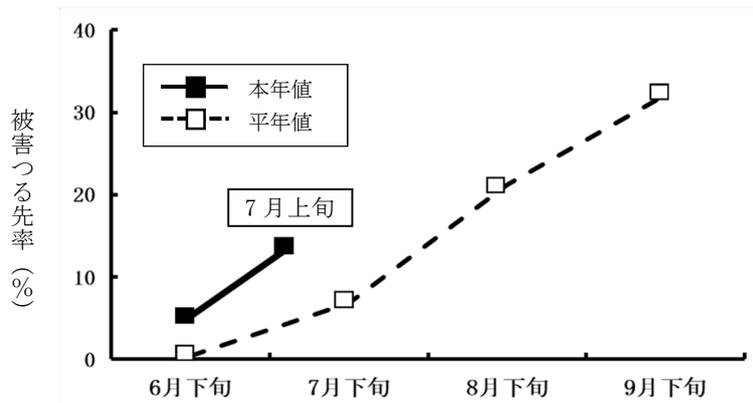


図1 サツマイモのナカジロシタバの被害つる先率の推移

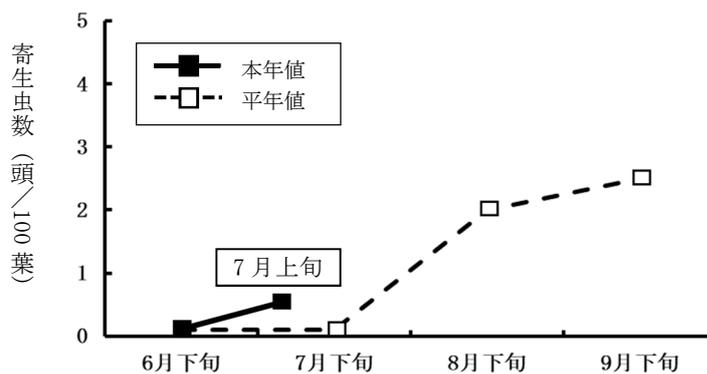


図2 サツマイモのナカジロシタバの寄生虫数の推移

[防除対策]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので、若齢～中齢幼虫の時期（つる先や上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期（図3、4））の防除に努める。
- ② 本年は、7月上旬の早い時期から発生が多くなっているため、早めに圃場を観察し防除適期を逃さないように注意する。
- ③ 薬剤は、表を参考にし、幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。

[ナカジロシタバの生態等]

- ① ナカジロシタバは、幼虫がサツマイモの葉を食害する。若齢幼虫はつる先の若い葉を好んで食害し、老齢幼虫になると摂食量が増えて急激に被害が拡大する。多発生すると、短期間で葉脈・葉柄だけを残して葉を食べつくすこともあり、サツマイモの収量・品質の低下につながる。
- ② 例年、年3回発生し、発生量は8月以降に発生する第3世代幼虫がもっとも多くなる。
- ③ サツマイモの葉を食い尽くした後、餌を求めて移動する際に民家等に侵入し、不快害虫として問題になることもある。



図3 ナカジロシタバ中齢幼虫



図4 ナカジロシタバによる初期被害

表 サツマイモ（かんしょ）のナカジロシタバ防除に使用できる主な薬剤¹⁾

(令和4年7月6日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	有効成分名	同左毎の総使用回数	IRAC ²⁾ コード
アクセルフロアブル	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内	メタフルミゾン	3回以内	22B
アニキ乳剤	2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内	レピメクチン	3回以内	6
オリオン水和剤40	1,000倍	収穫前日まで	5回以内	アラニカルブ	5回以内	1A
ディアナSC	2,500～5,000倍	収穫前日まで	2回以内	スピネトラム	2回以内	5
フェニックス顆粒水和剤	2,000～6,000倍	収穫前日まで	2回以内	フルベンジアミド	2回以内	28
マッチ乳剤	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	2回以内	ルフェヌロン	2回以内	15

1) 使用方法「散布」の登録内容

2) 殺虫剤抵抗性対策委員会（IRAC）により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの

(注) 農薬を使用する際は、ラベルに記載されている使用基準、注意事項を必ず確認する。